

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年二月度 入賞句一覧 投句数 五百八十六句

持選



奥能登の尖りし波や冬鴉

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

今年の冬は寒い寒い日が続きました。北陸地方は、鱒起しと云う季語があるように、終日荒波が岸壁を叩くことと思えます。能登の景色が目には浮かびます。素敵な御句ですね。

掻き揚ぐる湖のしたたり蜷舟

岐阜市 堀江 美州

蜷は淡水の砂地にすみ、湖や浅い川に長い竿の先の蓑をしやくるようにしてとります。その様子の表現が上手ですね。やわらかい浅春の日射しも感じます。

息災を確かめあふて初句会

大垣市 傍島 豊子

二年間、コロナのために句会をお休みすることがあり、皆に会うこともままならずお互いを思いつつの日々でした。まず言葉に出るのは「元氣でした」という明るい声、そして心休まる笑顔です。心やさしい御句ですね。思わずうれしくなります。

秀逸

終日を待たず降ろされ古曆

岐阜市 花川 和久

樫や明日へつなぐ鍛冶屋の火

安八郡輪之内町 野村 照子

大根煮ることごとと鍋喋りたる

愛知県名古屋市 舘野 茂子

山門の忿怒の仁王日向ぼこ

不破郡垂井町 西田 厚堂

寒鯉のゆると背を振るむすびの地

東京都中央区 山下 美江

寅の威を受けて寿くお元日

不破郡垂井町 清水 るり

白杖をとめて仰げり梅の香よ

大垣市 白井 秀子

虎落笛誰に向かふて呼びかける

大垣市 澤井 国造

ごりごりと鍵を捻じ込む寒さかな

京都府京都市 石田 俊雄

本開きまどろみさめぬ昼炬燵

三重県鈴鹿市 よかわ もりお

入選

静寂を破る一瞬歌留多舞ふ

岐阜市

花川 和久

心まだ老いを拒みて寒の紅

兵庫県芦屋市

田原 トミエ

目の見えぬ子に握らせる雪つぶて

大垣市

末守 節子

冬の朝ろくろも話も回りつつ

愛知県岡崎市

山本 蛍

黒土を落さば葱の香り立つ

愛知県名古屋市

館野 茂子

常備薬いつも机上に日脚伸ぶ

大垣市

村田 通夫

木洩れ日やひとつふたつと藪椿

大垣市

白井 秀子

梅香り背負って見せしランドセル

愛知県名古屋市

三浦 孝滋

鷺二羽とじつと川見る春浅し

大垣市

北村 陽子

櫛や福助坐する艾店

養老郡養老町

田中 紫香

園庭の子らの麦踏一列に

大垣市

村井 娑婆

お寺への道しるべなり藪椿

大垣市

早笥 千恵子

雲ふはり古墳の空や春動く

大垣市

高木 歌佐

枝反らし耐える姿の冬木かな

滋賀県甲賀市

甲賀忍者

朝霜や古墳のロマン封じ込む

揖斐郡大野町

横山 三水

湖波に脚をかけたる初比叡

愛知県瀬戸市

宮崎 諭志

拝殿の日向へこぼれ初雀

安八郡神戸町

高橋 泰

長寿眉湯気にくゆらせ根深汁

静岡県藤枝市

山本 和美

くぼみたる砥石を濡らす寒の水

神奈川県相模原市

中村 光枝

山眠る麓に眠る一か村

岐阜市

辻 雅宏

選者吟

こぼしゆく話きいてるすみれ草

美代子



一般の部